

学校法人会計の科目設定

1. はじめに

複式簿記の仕訳に準じて仕訳を行うことにより、貸借対照表(B/S)、事業活動収支計算書(P/L)、資金収支計算書(C/F)が同時に作成できます。仕訳については、別紙マニュアルを見てください。勘定科目はほぼ自由に設定できますが、正常な会計処理を行うためには、次の点を注意しながら科目の設定をしてください。

- らくらく会計を導入した最初に勘定科目の設定をしてください。
- 仕訳を入力した後の勘定科目の変更は慎重に行ってください。
具体的には
仕訳伝票は科目コードで管理していますので、科目名などを変更するとすべての仕訳に変更したものが反映されます。
勘定科目の削除は仕訳入力で使用していないものに限りに行ってください。
科目コードの変更は行わないでください。
- 勘定科目の役割は、次に説明する科目の属性(フラグ)で決まります。正しく設定しないと正常な会計処理ができません。
- 基本的には会計基準で示されている勘定科目に必要なに応じて追加して運用してください。
- 財務三表(B/S P/L C/F)作成の仕組み
らくらく会計では、通常の複式簿記と同じようにB/S科目とPL科目で仕訳をおこない、資金収支計算書(C/F)は自動作成しています。そのため勘定科目の設定は下記で説明するルールで行ってください。

◀ ▶ ⏪ ⏩ ⏴ ⏵ ⏶ ⏷ 科目印刷 補助科目印刷 チェック表印刷 資金収支科目へのコードジャンプ 前方検索 後方検索 補助科目の設定は補助 = 1 にして、ダブルクリック									
勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)							
科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科...	FlgG	FlgH	消費税
▶ 10000	【資産の部】	9	1	0					
11000	固定資産	3	1	0					
11010	有形固定資産	2	1	0					
11020	土地	0	1	0				22	
11030	建物	0	1	0				22	
11031	(建物減価償却累計額)	0	1	0					
11050	建物付属設備	0	1	0				22	
11051	(建物付属設備減価償却累計額)	0	1	0					
11070	構築物	0	1	0				22	
11071	(構築物減価償却累計額)	0	1	0					
11090	教育研究用機器備品	0	1	0				23	
11091	(教育研究用機器備品減価償却累計額)	0	1	0					
11110	管理用機器備品	0	1	0				23	
11111	(管理用機器備品減価償却累計額)	0	1	0					
11130	図書	0	1	0				23	
11140	車両	0	1	0				23	
11141	(車両減価償却累計額)	0	1	0					
11160	建設仮勘定	0	1	0					
11170	特定資産	2	1	0					
11180	第2号基本金引当特定資産	0	1	0					
11190	第3号基本金引当特定資産	0	1	0					
11200	退職給与引当特定預金	0	1	0					

2. 科目の属性

- FlgA,B,C. . . は勘定科目の性格を決める重要な属性です。らくらく会計では、これを科目のフラグ(旗)といいます。

FlgA	0=仕訳をする科目 1=小科目の計 2=準大区分の計 3=大区分の計 4=〇〇部の計 5, 6, 7=集計科目 9=コメント行
FlgB	1=B/S科目 2=P/L科目およびC/F科目
FlgC	0=借方科目 1=貸方科目
小科目	1=小科目を設定
補助科目	1=補助科目を設定
FlgG	1=現金預金など支払資金科目 500,505,510=人件費内訳表に関する科目 110,111,112,991,992,998はシステムパラメーター
FlgH	10,20=「翌年度繰越支払資金」に集計される科目 11=未収入金 資金調整勘定に反映される 12=前払金 資金調整勘定に反映される 13=未払金 資金調整勘定に反映される 14=前受金 資金調整勘定に反映される 18=手形債務 資金調整勘定に反映される 21~59=資金収支との連携科目 100=システムパラメーター
その他	FlgHやFlgGの999は帳票印刷のスイッチフラグ 科目コードの-xxxx #xxxx はシステムパラメーター

- システムパラメーターがある科目は変更や削除はしないでください。

3. 科目編集の基本操作と整列順

- ナビゲータについて



おもな操作について

科目の挿入	挿入したい場所の一つ下にカーソルポインタを移動させて「+」をクリックしてください。空白の行が挿入されます。
科目の削除	削除したい場所にカーソルポインタを移動させて「-」をクリックしてください。
変更の確定	「✓」を押してください。 または、カーソルポインタを他の行に移動しても確定します。
編集の取消	「✕」を押すと、編集は取り消されます。 ただし、カーソルポインタを移動させると確定しますので、取消は出来ません。

- 科目の整列順

B/SとP/L科目は科目コード順に整列

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)
科目コード	科目名	
10000	I 資産の部	
11000	1. 流動資産	
11010	現金預金	
11020	現金	
11030	預金 1	
11040	預金 2	

C/F科目は連番で整列

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)
連番	科目コード	科目名
100		I 事業活動収支の部
200		1. 事業活動収入
300	50030	基本財産受取利息収入
400	50040	基本財産受取配当金収入

4. 科目編集の例

科目の挿入

- 科目挿入をしたい位置の一つ下にカーソルポインタを移動して、「+」をクリックしてください。一行の空白が出来ますので、ここに新しい科目を入れて下さい。
- 勘定科目の科目コード
科目コードは前後の科目コード間の数値で決めてください。
科目コードが重複するとエラーになります。番号を詰めてしまうと以後は挿入が出来なくなりますので、余裕を持った科目コード付けをすすめます。
- 科目名を入れ、FlgA, FlgB, FlgC等を入れます。

科目の削除

- 削除したい科目の位置にカーソルポインタを移動して、「-」をクリックしてください。
- 確認表示の後に、削除が実行されます。
- 既に仕訳で使用した科目は削除しないで下さい。削除すると正常な会計処理が出来なくなります。【重要】

小科目の設定方法

- 次の例は「現金預金」に小科目を設定した例です。
- 「現金預金」科目のFlgAを「1」にします。
- 次の例では現金～預金6までの合計金額が「現金預金」に集計されます。

設定例1

科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科
11010	現金預金	1	1	0		
11020	現金	0	1	0	1	
11030	預金 1	0	1	0	1	
11040	預金 2	0	1	0	1	
11050	預金 3	0	1	0	1	
11060	預金 4	0	1	0	1	
11070	預金 5	0	1	0	1	
11080	預金 6	0	1	0	1	

設定例2

21040	預り金	1	1	1		
21050	預り金（所得税）	0	1	1	1	
21060	預り金（住民税）	0	1	1	1	
21070	預り金（社会保険）	0	1	1	1	
21080	預り金（退職共済）	0	1	1	1	
21090	預り金（雇用保険）	0	1	1	1	
21100	その他預り金	0	1	1	1	

【補足事項】

- 収入(益金)科目や支出(損金)科目に小科目を付けた場合は、その小科目に予算をいれてください。

- 小科目の集計科目には仕訳入力は出来ません。
- 資金科目と連携する科目は、資金収支科目にも同様な小科目を設定してください。

補助科目設定

1. 補助科目を付けたい科目の「補助科目」に1を入れると行が赤色にかわります。

勘定科目(B/S,P/L) 資金収支の科目(C/F)		FlgA	FlgB	FlgC	小科目	補助科...	FlgG
科目コード	科目名						
55060	事／退職給付費用	0	2	0			
55070	事／福利厚生費	0	2	0			
55080	事／旅費交通費	0	2	0		1	
55090	事／通信運搬費	0	2	0			
55100	事／減価償却費	0	2	0			

次のような補助科目の設定画面が出ます。

補助科目名は通常同じ名称にしますが、必要があれば部門別の名称にすることも出来ます。部門別に名称変更は補助科目の設定を行ったあとで行ってください。

補助科目の設定

部門別の名称

☐ する ☒ しない

補助科目の設定

部門別の名称

☒ する ☐ しない

部門別名称変更

補助科目の設定の後で
補助科目名は会計別の名称変更
も可能です。

2. 補助科目の設定ボタンを押すと次のような画面になります。

[閉じる\(C\)](#)

コード 科目名

001 ○○○

002 □□□

003 ◇◇◇

+ - ▲ ✓

コード	補助科目名
001	市内
002	市外
003	県外
999	その他

3. 補助科目コードは、001からの連番で設定してください。。
4. 門別に名称を変える必要が無い場合は“しない”にしてください。
5. “しない”にすると、個別に設定した名称は消えて共通の補助科目名称になります。
6. 補助科目には、予算の入力が出来ません。
7. 補助科目を付けた科目は、仕訳の入力で必ず何れかを選択してください。
もし、該当しないものがあると予想される場合は、999 その他 を入れてください。
繰越金が必要のないP/L科目では、補助科目よりも“摘要名集計”が便利です。

5. B/S、P/L科目とC/F科目との連携

- P/L科目とC/F科目は純額集計になります。
消耗品費 / 現金預金 ⇒ 消耗品支出
- B/S科目とC/F科目の連携は基本的には総額集計になりますので収入科目と支出科目との連携が必要になります。
例えば車両を取得した場合は、取得支出となり
車両 / 現金預金 ⇒ 車両支出
売却した場合は、売却収入になります。
現金預金 / 車両 ⇒ 設備売却収入
またこれらの科目は売却益や売却損が発生する場合がありますので収益科目とも連携しています。
- 「借入金」等の場合は、借入金が発生した時と返済した時では資金収支計算書では収入や支出に個別の科目に対応しますので、C/Fではこのようになります。
現金預金 / 短期借入金 ⇒ 短期借入金収入
短期借入金 / 現金預金 ⇒ 短期借入金返済支出
- 以上を整理すると次のようになりますが、「らくらく会計」ではほぼ通常の複式簿記仕訳をB/S科目とP/L科目で行うだけでC/F計算書は自動で作成できるようにしています。勘定科目と資金収支科目は、科目コード及びFlgHで連携しています。

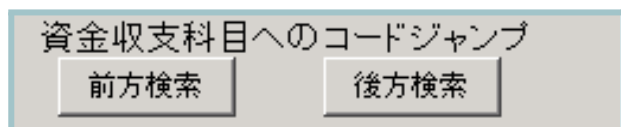
科目コードによる連携	科目コードを一致させることにより、同一コードの収支科目に集計されます。 例えば、「消耗品費」の科目コードは、P/L科目とC/F科目は同一にしないと、正しい処理ができません。
FlgHによる連携	勘定科目(B/S,P/L)と収支科目が n:1(または1:n) で連携する場合、科目コードだけでは一致させられないために、FlgHの値が一致する科目に金額が集計されるようにしています。 例えば、「器具及び備品」の取得支出は科目コードで連携させますが、売却収入は「売却益」とも連携していますのでFlgHでの連携も必要になります。
未払金 長期未払金 未収金 前払金 前受金 手形債務	それぞれの「資金調整勘定」に集計されます。

- この連携が正しくないと正常な会計処理が出来ませんので、科目のカスタマイズを行う前にチェック表印刷で連携を確認し変更後もチェック表印刷で見比べ確認をしてください。

6. 科目連携のチェック

資金科目へのコードジャンプについて

- 例えばコード22020「長期運営資金借入金」の科目にカーソルポインタを移動して、コードジャンプの後方検索を実行すると、連携している資金収支科目「長期運営資金借入金収入」の科目にジャンプし、もう一度後方検索のボタンを押すと、「長期運営資金借入金償還金支出」にジャンプします。



- このようにこのコードジャンプは勘定科目と収支科目の連携の確認がすばやく出来ます。
- しかしFlgHによる連携はコードジャンプでは飛びませんので次の連携表を似てください。

資金科目との連携チェック

- 「チェック表印刷」のボタンを押すと、勘定科目と資金科目の連携チェック表が印刷できますので、連携のチェックを行ってください。

科目連携表															
コード	勘定科目名	A	B	C	D	G	H	連携する資金の借方科目	A	B	C	D	G	H	連携する資金の貸方科目
10000	【資産の部】	9	1	0											
11000	固定資産	3	1	0											
11010	有形固定資産	2	1	0											
11020	土地	0	1	0			22	土地支出	0	2	0				施設売却収入
11030	建物	0	1	0			22	建物支出	0	2	0				施設売却収入
11031	(建物減価償却累計額)	0	1	0											
11050	建物付属設備	0	1	0			22	建物付属設備支出	0	2	0				施設売却収入
11051	(建物付属設備減価償却累計額)	0	1	0											
11070	構築物	0	1	0			22	構築物支出	0	2	0				施設売却収入
11071	(構築物減価償却累計額)	0	1	0											
11090	教育研究用機器備品	0	1	0			23	教育研究用機器備品支出	0	2	0				設備売却収入
11091	(教育研究用機器備品減価償却累計額)	0	1	0											
11110	管理用機器備品	0	1	0			23	管理用機器備品支出	0	2	0				設備売却収入
11111	(管理用機器備品減価償却累計額)	0	1	0											
11130	図書	0	1	0			23	図書支出	0	2	0				設備売却収入
11140	車両	0	1	0			23	車両支出	0	2	0				設備売却収入
11141	(車両減価償却累計額)	0	1	0											
11160	建設仮勘定	0	1	0				建設仮勘定支出	0	2	0				
11170	特定資産	2	1	0											
11180	第3号基本金引当特定資産	0	1	0				第3号基本金引当資産支出	0	2	0			999	第3号基本金引当特定資産取崩収入
11190	第3号基本金引当特定資産	0	1	0				第3号基本金引当資産支出	0	2	0			999	第3号基本金引当特定資産取崩収入
11200	退職給付引当特定預金	0	1	0				退職給付引当特定預金支出	0	2	0			999	退職給付引当特定預金収入
11210	減価償却引当特定預金	0	1	0				減価償却引当特定預金支出	0	2	0			999	減価償却引当特定預金収入
11220	施設設備引当特定預金	0	1	0				施設設備引当特定預金支出	0	2	0			999	施設設備引当特定預金収入
11500	その他の固定資産	2	1	0											
11510	借地権	0	1	0			23	借地権支出	0	2	0				設備売却収入
11520	電線入権	0	1	0			23	電線入権支出	0	2	0				設備売却収入
11530	施設利用権	0	1	0			23	施設利用権支出	0	2	0				設備売却収入
11540	ソフトウェア	0	1	0			23	ソフトウェア支出	0	2	0				設備売却収入
11550	有価証券	0	1	0			24	有価証券購入支出	0	2	0			999	有価証券売却収入

【補足事項】

- 最終的な確認は、テスト仕訳を行って、期待通りになっていることを確認してください。